

第52回経済産業省契約等評価監視委員会定例会議議事概要

開催日及び場所	令和6年1月30日（火） 経済産業省本館17階西6第2特別会議室	
委 員	委員長 梶川 融（太陽有限責任監査法人 会長） 委 員 梅野 晴一郎（長島・大野・常松法律事務所 弁護士） 委 員 川澤 良子（Social Policy Lab株式会社 代表取締役） 委 員 金子 良太（國學院大學経済学部 教授） 委 員 木村 琢磨（千葉大学大学院 教授） 委 員 藤居 俊之（東京工業大学物質理工学院 教授）	
審 議 対 象 期 間	—	
抽出案件	一件	（備考）
一般競争入札方式	一件	以下の議題について議事を執り行った。 ・経済産業省の基金の点検
最低価格方式	一件	
総合評価方式	一件	
指名競争入札方式	一件	
最低価格方式	一件	
総合評価方式	一件	
競争的随意契約	一件	
単 純 随 意 契 約	一件	
補 助 金	一件	
委員からの意見・質問、 それに対する回答等	意見・質問	回 答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申 又は勧告の内容	別紙のとおり	

(議事概要)

- 行政改革推進会議やデジタル行財政改革会議等での議論を踏まえ、予算執行の不断の見直しの一環として、経済産業省の所管する基金事業の点検の進め方について、委員から出された主な意見等は以下のとおり。

(主な意見等)

- 経済安全保障関係の基金について、物資ごとに既に目標年度が定められているのであれば、それに応じて終期を定めるのは非常に合理的。
- 保有割合の事業費部分について、交付決定済み額と見込み額とを分解して記載しているのは凄く分かりやすい。管理費についても、毎年度で事業費支出を基に個別に見通しをきちんと書いているのは説明責任を果たしていく観点から重要。ぜひこういった記載にしてほしい。
- 1つの基金の中で様々な保証期間が含まれるものがあるので、その場合、基金単位で終期を区切られる問題ではなく、ミスリーディングではないか。
- 経営安定関連保証等特別基金は、終期ではなく単なる見直しの目途にすぎないと思う。制度が終わる訳ではないと思うので、終期設定によって中小企業の方々が不安になることがないようにしてほしい。
- 一定の役割を果たし、対象となり得る事業者数等が減っている基金事業については、統合・廃止の可能性について考える必要はある。
- 政策的必要性は継続する一方で、基金設置法人を指定してやり続ける状況が結果として非効率を生む可能性が懸念される。特に信用保証協会においては、51の機関に分かれて管理コストもかかってくるため、非効率が発生するのではないかという国民の懸念は当然生じるだろう。
- 実績と当初の見込みに乖離がある基金について、特に信用保証協会の場合、51の機関ごとの個別の実績の乖離もあるのではないかと思うので、その乖離をいかになくしていくかという理由の説明は、より充実する必要がある。石油業界の利子補給事業も、「コロナの低利融資で需要がほかの制度に流れたので乖離率が高い」との説明があるが、他事業が新たに実施されているのであれば、この事業自体の必要性というのも当然見直されるべき。いずれの事業も政策目的は当然継続しているが、この実績の乖離率を見て、果たして基金の継続が必要なのかどうかという議論は10年待たずに当然必要。
- ランニングコストをいかに下げていくかという点は、中長期的な視点でビルドインしていくことが重要。
- 災害等対策関係の基金は、終期という言葉が馴染まないのは確か。マイルストーンとして10年で終期を定められているのは適切。
- 基金シートにおいて、所管原課側が期限の延長を保証するような書きぶりが適切なのかは疑問。
- 特定鉱害復旧事業は造成後、実績をもとに見直しが行われていると理解。12県の指定法人は国から遠くなっているため、管理費の効率化について、国の予算も入っている以上丁寧に説明していく必要がある。
- ALPS処理水の事業については、アウトプットとアウトカムの繋がりを分かりやすく説明してほしい。事業目的を見てもアウトカム設定の理由がよく分からないので、説明の精緻化をお願いしたい。指標とする水産物価格についても、福島周辺なのか日本全体なのか、いつの時点と比較しているのかなどが分かりにくい。
- 航空機国際共同開発促進基金は、航空機産業の生産高の増加比率でアウトカムを見積もるというのは適切だと思う。納付金で自己回転している良い例だと思うが、基金シートにおいてその点を定量的に評価する部分があっても良い。また、納付金が多いことは評価できる一方で、では民間金融機関でやるべきことではなかったのか

という視点もあるので、アウトカムのところ、政策上の意味合いやこの産業全体に対するインパクト等を加筆してほしい。

- 基金は長期に及ぶため、執行団体の管理費については合理的になるよう見直しが必要。
- 基金自身の政策目標が長いにしても、そのロードマップ的なものが必要になる。アウトプットやアウトカムは、また不断の見直しをしていくことが必要。
- 補填関係と災害等対策関係については、政策的メッセージ性と今回の見直しの趣旨とをどのように整理していただくか。終期を10年で定めるというのは、基金の見直しの観点でメッセージ性をもつが、反面、ワーディングの問題に近いが、国民や受益者、政策の対象者に、不安感のないよう、政策として安心感を持てただけるように、「注」などを打ちながら見直しを実施してほしい。ここを誤ると、逆に政策効果を台無しにしてしまうようなこともなくはないので、是非慎重に行革本部とも打合せいただき、他省庁とも政策的に平仄を合わせて説明してほしい。